

日本マス・コミュニケーション学会第31期第1回研究会

「韓国における放送委員会の役割と位相－『放送・通信の融合』、「放送と政治」などの問題を中心に－」（放送研究部会、メディア倫理・法制研究部会共同企画）のご案内

日 時：2007年12月1日(土) 10時－12時

場 所：立教大学池袋キャンパス 太刀川記念館3F多目的ホール

問題提起者：趙昌鉉（Cho, Chang Hyun） 韓国放送委員会委員長

討 論 者：黄 盛彬（立教大学）

司会兼通訳：黄 盛彬（立教大学）

趙昌鉉委員長は、漢陽大学校教授として長く行政学、主に韓国における地方自治に関する研究に当たってこられました。漢陽大学校の在職中は、行政大学院院長や大学副総長を努められ、研究の傍ら、大学行政においても活躍され、近年は、大統領諮問政府革新推進委員会の委員長、中央人事委員会委員長などの公職も歴任され、昨年からは放送委員会の委員長に就任されるなど、非常に幅広い分野にて活躍してきました。

韓国の放送委員会は、2000年に新放送法の制定により発足し、韓国民主化の成果として内外の注目を集めつつ、昨年には第三期の委員会が組織されました。発足当初より、政治的独立及び均衡の問題、そして純粋な意味での独立行政委員会ではない、つまり放送事業の許認可権はあるものの所管業務の法令を発議できないなどといった「問題」が指摘されてきましたが、これまでどのような成果と課題を露呈しているのかについて、今回の研究会では、立教大学での公開講演会などで来日する趙昌鉉委員長に報告をお願いし、学会会員との討論を期待しております。

また、韓国では、今年の12月末に大統領選挙を控えています。盧武鉉現職大統領の支持率の低下とともに与党勢力の支持基盤が弱まっているといわれる一方で、ハンナラ党の大統領候補である李明博（イ・ミョンバク）氏の支持率は過半数に迫る勢いを見せており、最近では、これまで二度、大統領選挙で敗れた李会昌（イ・フェチャン）ハンナラ党の元総裁の無所属出馬が現実となり、ますます混戦の様相を展開しています。そうした中で、伝統的に保守勢力を支持しているといわれる三大新聞（朝鮮、東亜、中央）の一方で、民主化以降の放送メディアは、進歩（リベラル）あるいは民主化勢力を自称する現与党勢力への「えこひいき」の傾向も指摘されています。放送の公正・中立を審議する立場である放送委員会としては、今回の大統領選挙における放送の政治的公正（公平）、中立の問題をどのように考えているのか、といった差し迫った問題についても、率直な意見交換が期待されます。

関連の分野の会員はもとより、広く韓国政治、日韓関係などに関心を持っておられるジャーナリスト、大学院生などにもぜひご参加ください。なお、当日は逐語訳の予定。